

令和8年6月29日医療的ケア児者支援研修会の報告

1 「東葛地区医ケアコーディネーター交流会」との共催

今回の研修は松戸市内だけではなく「東葛地区医ケアコーディネーター交流会」との共催で開催しました。

「東葛地区医ケアコーディネーター交流会」とは松戸市、柏市、流山市、我孫子市、野田市の5市で活動する医ケアコーディネーターや医ケア児の支援者、医療者、行政が任意で年に1, 2回集まり地域課題や情報共有をしているグループです。

令和8年4月より「世話人会」を発足し、研修会や交流会の事前打ち合わせを行いその都度会の目的などを整理し、会の運営に携わっています。

【世話人会メンバー】しおり相談室外川氏（柏）、地域生活支援センターすみれ眞田氏（流山）、我孫子市障害福祉課桜井氏、基幹相談支援センターさるびあ並木氏（野田）、発達支援室びんず富永、藤木（松戸市）

2 研修の目的と研修によって得られた効果（事後アンケートから）

本研修の目的は医ケア児者の支援体制の構築を担う相談支援専門員を増やし医ケアコーディネーターが個々のケースに追われるだけではなく、本来期待されるコーディネート業務を行うことができる様にすることです。

（1）連携に対する心理的ハードルの低下

最も多く見られた回答は、

- ・ 医療職へ相談しやすくなった
- ・ 医ケアコーディネーターの役割が理解できた
- ・ 他機関との連携方法が分かった
- ・ 相談先が明確になった

といった内容でした。

これは、本研修が知識提供だけではなく、多職種連携を促進する機会として機能したことを示しています。

（２）支援に対する意識の変化

自由記述では、

- ・ 「医療のことは医療職に任せればよい」という考え方が安心につながった
- ・ 現場の声を聞き、自分の役割が整理できた
- ・ 医療的ケア児支援へのハードルが下がった

などの回答が見られました。

このことから、本研修は医療的ケア児支援に対する心理的負担を軽減し、「一人で抱え込まない支援」の考え方を浸透させる効果があったと考えられます。

（３）実践につながる学び

業務への活用方法として、

- ・ ケース対応
- ・ 保護者支援
- ・ 職場での情報共有
- ・ 医療機関との連携

など具体的な回答が多く寄せられており、知識の習得に留まらず、実務への応用を意識した研修となったことがうかがえます。

3 アンケートから見えた課題

一方で、今後の研修に向けた課題も明らかになりました。

（１）医療知識の基礎部分への不安

理解度については、

- ・ 「よく理解できた」 36.4%
- ・ 「おおむね理解できた」 50.0%
- ・ 「少し理解できた」 13.6%

となっており、理解できなかったとの回答はありませんでしたが、「十分理解できた」と回答した割合は約3分の1に留まっています。

自由記述でも、

- 最低限知っておくべき医療知識を知りたい
- 医療機器をもっと理解したい

という意見が挙げられています。

このことから、医療職ではない相談支援専門員等にとって、実務上必要となる医療知識の基礎を体系的に学ぶ機会が求められていると考えられます。

（２）ケース対応への不安

医ケアケースの受入意向では、

- 積極的に引き受けたい 22.7%
- 医ケアコーディネーター等の支援があれば引き受けたい 40.9%
- よく分からない 27.3%

という結果でした。

「引き受けたい」という回答よりも、「支援体制があれば対応できる」という回答が最も多く、個人の意欲よりも、相談体制やバックアップ体制への安心感が受入れの鍵となっていることがうかがえます。

総括

今回の研修は、医療的ケア児者支援に必要な基礎的理解の促進に加え、多職種連携への心理的ハードルを下げ、相談体制への安心感を醸成するという点で一定の成果が認められました。

一方で、アンケート結果からは、参加者は「知識不足」そのものよりも、「実際のケースでどのように判断し、どのように医療職や医療的ケア児等コーディネーターと連携すればよいか」に不安を抱いていることがうかがえます。そのため、今後は基礎知識の補強に加え、事例検討や多職種連携を中心とした実践的な研修へ発展させることで、医療的ケア児者支援を担う人材の育成につながるものと考えられます。